

本市には、様々な企業が立地しています。市民の皆さんはどのような企業が立地し、そこでどのような製品が誕生し、またどのような人が働いているかご存じでしょうか。

市内企業をリレーで紹介し、企業のものづくりや人づくりについてレポートします。

市内企業の
ものづくり・人づくりを紹介！
企業の
ちから

No 2 The company in Shirakawa

東北ポール(株)白河工場
TOHOKU POLE CORPORATION

住 所：新白河四丁目13
生産品目：ポール、各種パイルなど



“支える”可能性を追求。
新しい発想と技術力を磨く。



①積み上げられたコンクリートポール。一日最大160本生産することもあります
②白河工場長の齊藤恒雄さん(右)と管理課長の滝浪芳雄さん
③地理的優位性が高い白河工場には、従業員85人が勤務しています
④新幹線乗客に本市をPRするため、工場内煙突に「みちのくの玄関」のメッセージ
⑤コンクリートポールの強度検査。2～3m曲げても折れない柔軟性があります
⑥作業風景。毎朝の朝礼では、従業員の安全・安心のためのミーティングを実施

「東日本大震災の津波被害で、何もかも無くなってしまった沿岸部の街に、コンクリートポールが立ち、電気がつながるのを心待ちにする人たちの光景を見ました。普段ならあまり気にとめられることもない配電用のポールが必要とされていることを改めて感じた瞬間でした」と話す管理課長の滝浪芳雄さん。

東北ポールは、電柱・携帯電話用アンテナ柱や建物の堅固な土台を担っているコンクリートパイルなどを製造しています。また、電柱の倒壊・沈下などを防止するために地中基礎部分に取り付けられる「ねかせ」には、再利用可能な合成樹脂を使用しており、リサイクルの推進と作業性の向上に努めています。

創業者の星荘七さんは本市出身。材木業を経営していましたが、将来的に木製電柱の枯渇を痛切に感じ、昭和26年8月にコンクリート業に転換、現在の東北ポールが誕生しました。敷地面積は約8万㎡、ポール・パイルの年間生産量約5万tを誇り、私たちの生活の場をさりげなくサポートしてくれています。

「私たちの技術が、皆さんの安心できる暮らしの支えとなれるよう、これからもスリムで強靱なスマートカンパニーを目指していきます」と白河工場長の齊藤恒雄さんははっきりと話してくれました。

白河市民への愛がいっぱい

全国から白河市に多くの義援金・寄附金が届きました。ここでは、4月13日から5月17日までの提供者をご紹介します。義援金・寄附金は、被災者の支援と本市の復興のため、有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

振込された方については、カタカナで表記させていただきます。5月18日以降の義援金・寄附金については次号でお伝えします。

- 匿名 様
- (株)若林商店 様
- カワチ薬品白河店前かどの市場 様
- ヴェテランカークラブ東京 様
- (医)創生会真岡西部クリニック 趙達来 様
- 片倉文子 様
- 福島県歌謡協会県南支部 様
- 石井暁子 様
- 世田谷区(東日本大震災復興支援金) 様
- 白河点字友の会 様

《仮設住宅等支援者をご紹介します》

- 日本カイロプラクターズ協会 様
- 明日飛子ども自立の里 様
- 工房 風 様
- スズヤ鍼灸治療院 様
- とちぎYMCA 様
- 栃木DARC 様
- たい焼き 平太郎 様
- 渥美光 様

《学校給食支援者をご紹介します》

- 江戸川区学校給食友の会代表 小原英行 様 (小松菜を提供)

コンセントをごまめに抜こう
白河市はチャレンジ25キャンペーンに参加しています。
チャレンジ
25

「広報白河」は再生紙を使用しています。